

# 論文作成時のチェックポイント

## 英文著者名

肩書きは全著者とも記載（RPT, PhD など）。

姓は全て大文字、名は2文字目以降小文字で表記。

英文要旨（査読にて要旨の修正があるため、査読終了後の修正稿投稿の際に記載で良い）

150 words 以内で記載。

We, Authors, Our などの主語は用いない。

p 値 ( $p < 0.05$  など) は記載しない。

男性 male 女性 female を用いる。

国際単位系 (SI) を用いる (例: 長さ: m、質量: kg、時間: s、温度: °C、周波数: Hz)。

## 要旨

字数は 300 字程度。

統計手法は記載しない。

p 値 ( $p < 0.05$  など) は記載しない。

要旨、本文中とも句読点はすべて全角「,」「.」とする（「,」「.」は用いない）。

## I. はじめに

研究の背景と研究目的を書く。

略称を記載する際は、原則、正式名称和訳（英文フルスペル: 以下, 英文略語）とする。

本文中に一度しか記載のない名称は、略語・略称表記は不要。ただし、略称が一般的である名称（例: ADL）は、正式名称（略称）と記載してもよい。

## II. 対象と方法

1. 対象: 年齢、体重、身長などの平均値、標準偏差は小数点1位まで記載。

倫理に関して: 倫理委員会の承認を受けている場合は、承認を受けた倫理委員会の名称と番号を記載。

倫理委員会の承認を受けていない場合は、倫理的な配慮を記載。

2. 方法（以下の項目を記載。ただし小見出しはつけない）

課題（実験計画など）、測定項目（測定指標）、測定装置（特定の機器の記載をする際は、一般名（商品名、会社名）と表記する）、測定手順、統計（使用ソフト名と検定名を簡潔に記載する。なお、有意水準に「未満」の記載は不要。）

### Ⅲ. 結 果

数字は正式に記載（.05 ではなく 0.05、2,34 ではなく 2.34）。  
有効桁数をチェック（有効桁または実用性がある桁にすること）。  
p は小文字立形で記載。

#### 図の注意事項

図は原則掲載しない（棒・円・折れ線図、相関図など表で対応可能なものは掲載しない）。  
人物の写真を掲載する際は、目隠しなどの配慮をすること。許可を取得している場合は、その旨を謝辞に記載すること。

#### 表の注意事項

タイトルは表の上に記載。  
単位は、各項目の右隣に（）に入れて記載する（例：BMI（kg/m<sup>2</sup>））。  
有効桁数は原則小数点 1 桁とする。  
罫線は最小限にする（上下の罫線が基本、縦の罫線は原則使用しない）。  
**統計結果：p 値、t 値、F 値、ns などは削除し、有意な場合のみアスタリスクで示す。**  
**ANOVA の結果表などは掲載しない。**

### Ⅳ. 考 察（小見出しはつけない）

最初に結果のまとめを記載し、続いて、解釈・その他の内容（測定値の正しさ、研究の限界、仮説の証明、今後に与える展開、示唆、課題など）を記載（注意：飛躍した解釈は避ける）。  
最後に、結論でまとめる（ただし、まとめ、結語などの章にはせず、考察中に含める）  
本論文の一部を、学会発表やその抄録で用いた場合には、その旨を必ず記載する（ただし、複数学会で発表した場合には、代表的な学会一つのみを記載する）。

#### 利益相反

開示すべき利益相反がある場合には必要事項を記載する。  
例：本研究は○○○の資金提供（または装置の提供）を受けた。  
本論文は○○年度科学研究費（8 桁の課題番号）（または○○助成研究）の助成を受けた。  
開示すべきものが無い場合にも、その旨を必ず記載する。

#### 引用文献（参考文献は記載しない）

ピリオド、セミコロンなども含め投稿規定を熟読する（投稿規定に記載例を掲載しています）。  
文献番号の記載方法 1. → 1)  
英文著者の姓名の書き方（Wollacott MH, … など）  
Author が 4 名以上の場合は 3 名記載し、以降は ,et al.: と記載（コロンなど忘れずに）。  
頁表記は略さない（234-44 ではなく 234-244.）。  
雑誌名 英文誌は略を用いる。省略名は原則として Index Medicus に従うこと。  
和文誌名は省略しない。  
年、巻、頁の順で記載する（例 2015,23: 123-133.）。